



街かど gallery



八女市室岡
池口 和子

私の絵との出会いは25年ほど前、ハワイのワイキキビーチで日本人女性のスケッチ姿を見かけ見学させてもらった時です。その素晴らしい出来栄に感動し出来る事なら自分も描いてみたいとの欲求に駆られました。自分には描けない、でも描いてみたいと自問自答して早25年、60歳過ぎて先生との出会いがあり、教室に通うようになりました。

今は時間の余裕も出来、絵仲間とともに楽しみながら描いております。

この絵は主人とスイス旅行で訪れたマッターホルンです。3、883mの展望台からの写真をもとに描きました。雄大なパノラマ、叫び出したくなるほどの絶景に感激、でも空気が薄く、大声が出せないもどかしさの中、富士山よりも高い所に立っている自分に驚き、自然の美しさに吸い込まれ、時を忘れ見とれてしまいました。その感動を忘れないうちに、描きたく筆を持ちました。まだ未熟で上手く描けません先生にご指導いただき、一生懸命描きました。これからも元氣な限り楽しみたいと思っております。



冠雪した連峰の左のおにぎり型の山が御前岳（1209m）右端の小さくのがった山が釈迦岳（1230m）。撮影は平成十七年十二月二十日。雪が降っていて空が青空というのも冬で

は珍しい風景。撮影場所は八女市矢部村御側（女鹿野）十二月に山を歩くと、林の中の木陰にひっそりと紅い実をつけたヤブコウジ（藪柑子）に目を奪われる。花は七、八月頃白くて可憐な花を咲かせるが、十一月の晩秋から冬にかけて紅い実をつける。厳寒の冬でもめげずにピカピカと光沢のある紅い実をつけることから古来正月用の飾りとして愛用されてきたが、最近山の環境変化が原因か、あまり見かけなくなつた。

ヤブコウジは気管支関係の漢方薬として珍重されてきた経緯があり、私たちにとって大切な植物である。

（黒木町）松尾重根

楽しい仲間たち 岡山少年サッカークラブ

来年創部20周年を迎えます。創部10周年記念大会を期に、当クラブ主催の記念大会を毎年12月に、子ども達の成長とサッカーを好きな子ども達のふれあいを目的に開催しています。

その甲斐あってか、一昨年は福岡県代表として、鹿児島で開催された九州大会に出場しベスト16という成績を収めることが出来ました。現在は6年生～2年生まで34名の部員と、1年生・年長さんの体験入部中のちびっ子が8名、活気に溢れたチームです。練習にはOBの中学生や高校生などが来てくれて、希薄になりつつある、縦の繋がりがあり、子供たちもお兄ちゃんたちのプレーに目を輝かせて刺激を受けながら、楽しく熱の入った練習を一緒にしています。

9月の小山喬央杯で『優勝』11月のうきは市長杯も『優勝』と練習の成果が結実し、また4年生大会のサウスリーグでも『優勝』3年生大会のあめ玉杯も『優勝』と、各学年ごとに、他の学年に負けたくないという、競争意識も芽生え、子どもたちは今までにない成長と自信になっており、たくましく心身共に成長しています。

みんなでつないだボールが、相手ゴールのネットを揺らした時の子どもたちの笑顔、勝ったときの感動、観戦している者も感激と感動を味わっています。



4年生

何事も一生懸命やればきっと出来るあきらめない心と、チームワークの大切さ、そしてなにより『練習は裏切らない！』を身をもって体験し成長し続けていきます。サッカーが好きな子、興味がある子と一緒に楽しくサッカーやろうよ。毎週、火・木・土曜日の午後5時から7時まで、室岡グラウンドで練習しています。是非一度遊びに来て下さい。待っています。



6年生

眩き

可哀想な子ども達

マンモス小学校の前に住んでいる知り合いの家によく寄るのだが、いつも雨の日に思うことがある。今の子どもは可哀想だな…と。15時過ぎると、ずらりとお迎えの車が並ぶのだ。時には渋滞を起こし大人同士の喧嘩まで発生している。

子どもの頃、雨の日の学校帰りは長靴でわざと水溜りに入りピチャピチャと泥水と戯れて楽しんだものだ。塀にはカタツムリが這っていて角を引っ込めて遊んだ。道にはアマガエルがいっぱい飛び出してきて追いかけ捕まえた。そんな雨の日の楽しみを、すぐ車のお迎えが来る今の子どもは味わうことができないのだ。長靴を履いている子もあまり見かけなくなった。雨のしずくがどこにどう流れていくかとか、傘を回すと雨のしぶきがきれいなこと、雨が降った後の山がどんな色なのかもきっと知らないだろう。

小雨が降った運動会。近隣の小学校では実施した学校と、平日に延期した学校とあった。後日、両方の学校とも抗議の電話があった。実施した学校では「小雨が降ってきたのに続行して子どもが風邪をひく。可哀想じゃないか！」延期した学校では「降ったり止んだりの小雨ぐらい決行できるだろう。親が見に行けない平日に延期されて子どもが可哀想だ！」と…。小雨を顔に受けながら走る運動会も子どもにとっては面白かったり、平日にこじんまりとやる運動会もいつもと違う経験だったり、どちらも大人が思うほど子どもは凹んでいないのだ。意外と切り替えてその場を楽しんでいる。

親のハイリコミは中学校に上がっても続く。私の住む福岡市内のある中学校では学校の部活動なのに日曜日の試合は会場まで子ども達は自転車やバスで行くのではなく、当番の親が車に乗せていくのが当然になりつつある。顧問の先生のお弁当代、お茶代、打上げ代も親達が払うのが慣習。差し入れだといってシュークリームやらキャンデーやら甘いお菓子を試合の合間に子ども達に配る。

こうして、親のハイリコミでしっかりと守られる子ども達。果たしてそれは子どもにとって本当に安全なことなのか？ それこそ可哀想に思えて仕方がない。

森 志穂（福岡市）

矢部川源流・杣の里の四季 ⑥

釈迦岳・御前岳連峰の初冠雪とヤブコウジ（ヤブコウジ科）

西日本新聞出前講座 筑南小学校

ようこそ先生！

10月19日、筑南小学校で西日本新聞の竹崎部長による授業があり、6年生35人が取材の着眼点や記事の書き方を教わりました。竹崎部長は①大事なことから先に書く②文章を短く区切る③つなぎ言葉は必ずして



みる④かざり言葉の代わりに事実を書くーなどの注意点とあわせて「取材をするときは何を一番伝えるべきかをしっかり考え、頭の中を整理しておこう」と話されました。小学校では今年から、新聞を使った授業が多く取り入れられるようになっていきます。小さい頃から新聞に親しみ、情報のやりとりが得意な子に育ってほしいですね。